

二本松市文化財調査報告書 第32集

平成18年度市内遺跡試掘調査報告書

郡山台遺跡
高西地区
二本松城址

平成18年3月

二本松市教育委員会

例 言

1. 二本松市は、平成 17 年 12 月 1 日に二本松市、安達郡安達町、同岩代町、同東和町の 1 市 3 町が合併して誕生した市である。
2. 本書は、平成 18 年度国庫補助事業として二本松市教育委員会が実施した市内所在遺跡における試掘調査の結果をまとめたものである。
3. 出土遺物の整理については門馬久子（二本松市教育委員会文化課社会教育指導員）、桑原尚子の協力を得た。
4. 遺物の実測は門馬が、拓本は桑原が担当した。また、本報告書に掲載した遺構のトレース、挿図・版組は吉田が担当した。
5. 本報告書の執筆は吉田が担当した。

凡 例

1. 測量における基準は任意として仮標高を設定し、遺構実測図の方位はすべて真北を使用した。
2. 遺構実測図のうち断面図に示した数字は仮基準を用いた仮標高(単位はm)であり、平面図のアルファベットは対応する断面図の位置を表している。
3. 遺構については図ごとに縮尺を示した。
4. 断面図の土層は、基本層位を L I ・ L II …で、遺構堆積土を ℓ 1 ・ ℓ 2 …で表示した。
5. 本文中で使用した略号は次のとおりである。
P…ピット SD…溝跡 SX…性格不明遺構

目 次

例言・凡例

第 1 編 郡山台遺跡…………… 1	第 3 編 二本松城址……………13
第 2 編 高西地区 …………… 8	

挿 図 目 次

第 1 図 市内遺跡試掘調査位置図	第 9 図 二本松城址調査位置図……………13
第 2 図 郡山台遺跡既調査範囲と調査位置図… 1	第 10 図 二本松城址①トレンチ配置図……………14
第 3 図 郡山台遺跡①トレンチ配置図…………… 2	第 11 図 二本松城址②トレンチ配置図……………15
第 4 図 郡山台遺跡②トレンチ配置図…………… 5	第 12 図 二本松城址② 1 T 実測図……………16
第 5 図 郡山台遺跡② 1 G ～ 4 G 実測図…………… 7	第 13 図 二本松城址② SD01 出土遺物……………17
第 6 図 高西地区周辺遺跡及び調査位置図………… 8	第 14 図 二本松城址②出土遺物 1 ……………18
第 7 図 高西地区トレンチ配置図…………… 9	第 15 図 二本松城址②出土遺物 2 ……………19
第 8 図 高西地区 1 T 実測図……………10	

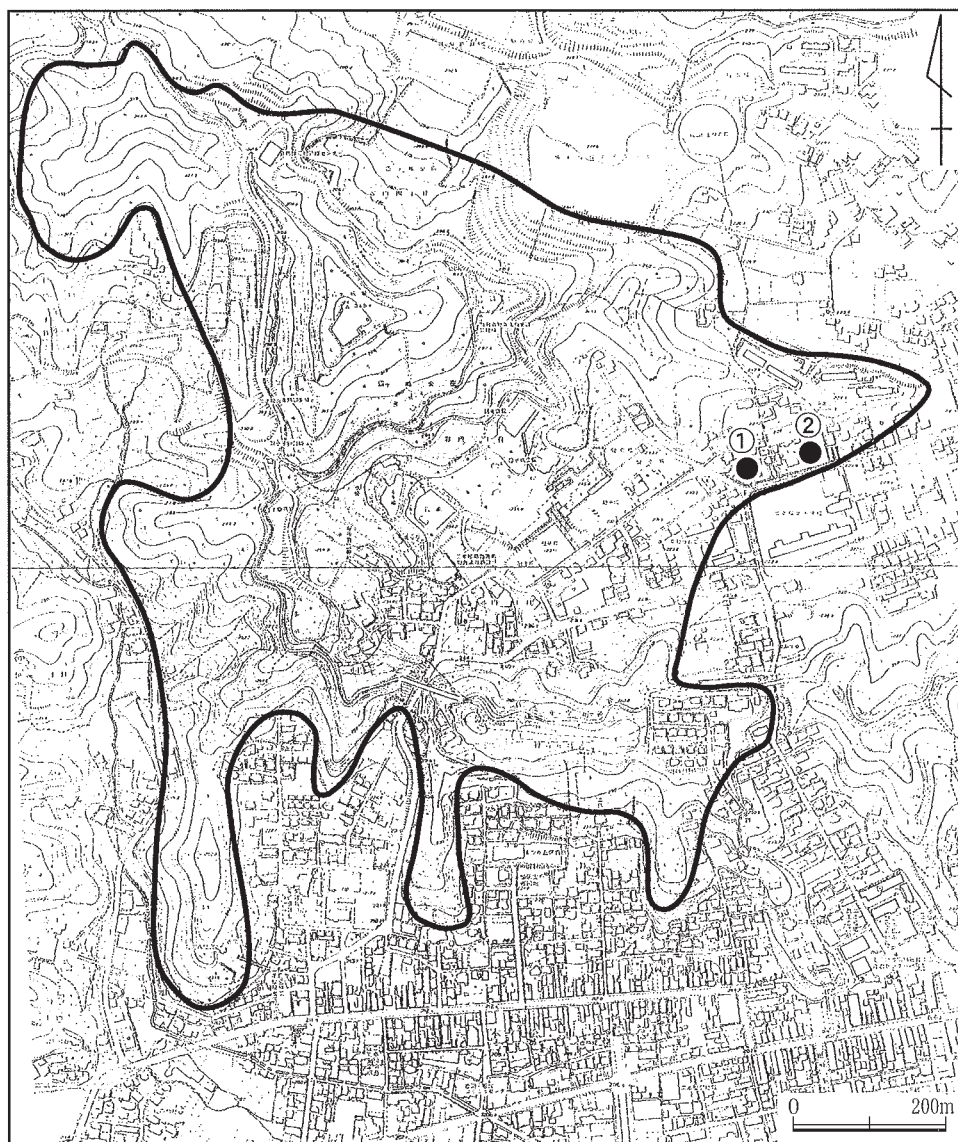
図 版 目 次

図版 1 郡山台遺跡①	図版 4 二本松城址①
図版 2 郡山台遺跡②	図版 5 二本松城址②
図版 3 高西地区	図版 6 二本松城址②出土遺物

第3編 二本松城址

遺跡の環境（第9図）

二本松城址は、市街地の北西約1kmに位置する標高345mの独立丘陵を中心に営まれた平山城で、本丸がおかれた独立峰を中心に、南・北・西が丘陵で囲まれ東方が開いたいわゆる馬蹄形城郭といわれる堅固な城である。現在大部分が公園であるが、山裾部は宅地として利用されている。当城址は嘉吉年間（1441～1443）、畠山満泰によって築造されたと伝えられ、寛永20年（1643）以降は二本松藩丹羽家の居城となり幕末を迎える。平成10年度からは、保存管理計画に基づく資料収集のための学術調査が年次計画で実施されている。詳しくは、『二本松城址Ⅰ～Ⅸ』を参照されたい。



第9図 二本松城址調査位置図

1. 国有地売却に伴う試掘調査〔二本松城址①〕（第10図）

所在地 二本松市郭内三丁目 253-2

開発面積（調査面積） 172.96㎡（20㎡）

調査期間 平成18年9月4日（月）～平成18年9月5日（火） 2日間

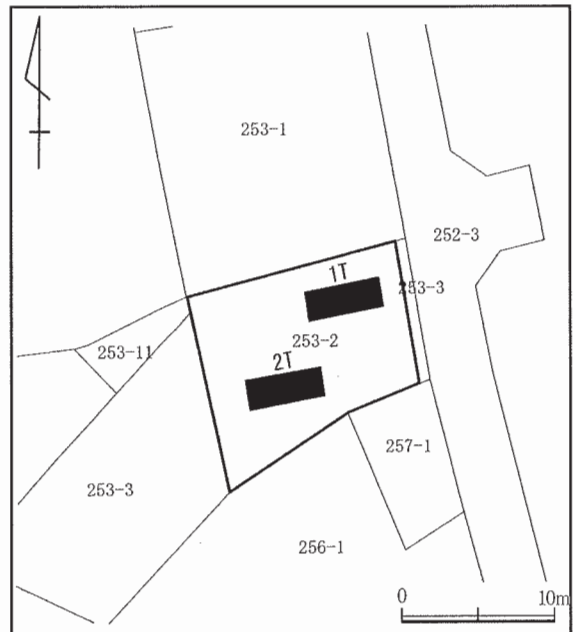
調査原因 国有地売却

調査担当 吉田陽一（市教育委員会文化課）

調査概要

今回調査を実施した調査区は遺跡範囲の東部に位置し、侍屋敷が所在したと考えられる城下部分にあたる。江戸期とほぼ同じ位置の南北に延びる道路沿いで、戒石銘碑のある地点から東西へ延びる道路とのコーナーに位置する。現況は平坦な雑種地で、私道の西側地点に位置し、東から西へ延びる台形状を呈する。北側も雑種地で、西は宅地、南側は集合住宅が所在する。全体的に北から南へ向かって緩やかに下り、南側の住宅は約50cm低い。調査区は東側の境界ラインを基準に5×2mトレンチを2箇所設定した。調査は、表土から遺構検出面までの堆積土の除去及び埋め戻しをミニバックホウで行い、そのほかの作業を人力で行った。記録図面はS=1/20で作成し、記録写真は35mm判カラーネガフィルムで行った。

基本層序は4層である。LⅠは盛土層（山砂）で層厚約10cm、LⅡは住宅を解体したときの整地層（灰黄褐色土）で層厚約30cm。2Tでは、2層に細分される。LⅢは現代の旧生活面（にぶい黄褐色土）で層厚約30cm、LⅣがそれ以前の生活面（褐灰色土）となる。LⅣは、砂質土で60cm掘り下げると湧水する状況がみられた。



第10図 二本松城址①トレンチ配置図

1 T

調査区北側に設定した5×2mのトレンチである。現況はほぼ平坦である。深さ約45cm掘り下げるとLⅢに達し、さらに30cm掘り下げるとLⅣに達する。LⅣは東側に向かってやや傾斜する。遺構は、ピット1基を検出した。P1は58×62cm、深さ18cmの不定円形を呈する。出土遺物も無く、柱痕も確認されなかったため、性格・時期は不明である。遺物は、LⅠより磁器片3点、LⅡより陶器片5点・磁器片7点・すり鉢片2点、LⅢより陶器片1点（図版4-5a）が出土している。

2 T

1Tから南西に3mの地点に設定した5×2mのトレンチである。現況はほぼ平坦である。深さ約35cm掘り下げるとLⅢに達し、20cm掘り下げるとLⅣに達する。さらに、LⅣの層厚を確認するため、60cm掘り下げると湧水がみられたため、地山までは掘り込まなかった。LⅣ上面からは、トレンチ東側1.5mの地点から人頭大の石が3個並んで検出されたが、検出状況から屋敷跡に伴う礎石の可能性は低いと判断された。よって、明確な遺構は検出されていない。遺物は、LⅠより磁器片1点・瓦片2点・釘1点、LⅡより磁器片10点（図版4-5b～k）・陶器片1点（図版4-5l）が出土している。

調査結果

今回の調査範囲において遺跡に関連する遺構は検出されず、遺物は流れ込みとみられる。よって、近世の武家屋敷地があった当時の生活面は既に削平されているものと考えられた。以上のことから、当該地区には遺構の存在する可能性は低く、存在していたとしても既に滅失していると考えられた。

調査後の対応

事前の本調査は必要ないものと判断し、開発をする際は遺跡の範囲内であることを十分認識し、範囲外を掘削などしないよう慎重に施工するよう依頼した。

2. 個人住宅に伴う試掘調査〔二本松城址②〕（第11図～第13図）

所在地 二本松市郭内二丁目 264-7

開発面積（調査面積） 299.74m²（40 m²）

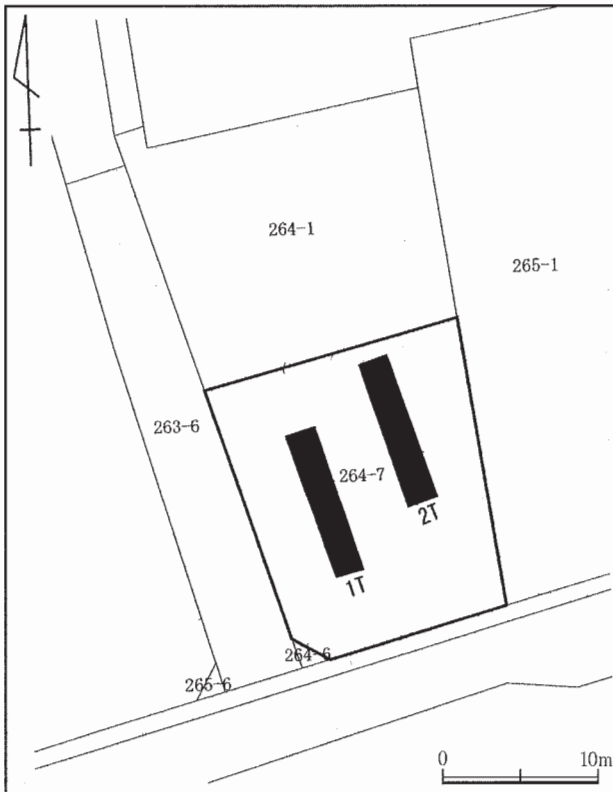
調査期間 平成18年9月6日（水）～平成18年9月8日（金） 3日間

調査原因 個人住宅建設

調査担当 吉田陽一（市教育委員会文化課）

調査概要

調査区は遺跡範囲の東部に位置し、侍屋敷が所在したと考えられる城下部分にあたる。江戸期とほぼ同じ位置の東西に延びる道路沿いで、戒石銘碑のある地点から東へ約100mの地点に位置す



第11図 二本松城址②トレンチ配置図

る。現況は、東側と南側に石垣を積んで、平坦な面を造った駐車場で、市道の北側に位置し、北から南へ延びる長方形を呈する。北・東側は宅地で、西・南側は道路に面する。

調査区は西側の境界ラインを基準に10×2mトレンチを2箇所設定した。調査は、表土から遺構検出面までの堆積土の除去及び埋め戻しをミニバックホウで行い、そのほかの作業を人力で行った。記録図面はS=1/20で作成し、記録写真は35mm判カラーネガフィルムで行った。

基本層序は大きく分けて6層である。LⅠは敷砂利層で層厚約10cm、LⅡは暗褐色土で一部グライ化しており、現代の住宅を解体した際の整地層で層厚30～48cmを測る。2Tでは3層に細分される。LⅢは北から南へ向かって造成された幕末期頃の旧生活面で、この面を造るために何度も造成をしていることが確認され、層厚約40～70cmを測る。この造成は土質等により7層

に細分される。LⅣは灰黄褐色土の自然堆積層で層厚15cmを測る。LⅤは褐灰土で、江戸時代の生活面で層厚20cmを測る。LⅥはにぶい黄褐色土である。

1 T

調査区西側に設定した10×2mのトレンチである。現況はほぼ平坦である。深さ約40cm掘り下げるとLⅢに達する。LⅢは、北側から南側に向かって造成されていることが確認された。この層の中には、炭化物が多く含まれている土も見られることから、戊辰戦争で大火を受けた後に造成をしたものと判断された。この面から遺構は検出されなかった。

さらに下層に遺構があるか確認するためにサブトレンチを設定して掘り下げた結果、LⅤ層上面

Figure 1 consists of two main parts: a plan view (top) and a profile view (bottom). The plan view shows a rectangular area divided into sections LIII-1, LIII-3, LIII-4, LIII-5, and LIII-6. A small inset in the top left corner shows a map of the site. The profile view shows a cross-section of the site with layers LIII-1, LIII-2, LIII-3, LIII-4, and LIII-5. A scale bar indicates 0 to 2 meters. The profile view also shows a detailed view of the LIII-1 section with sub-layers L1, L2, L3, L4, L5, L6, L7, L8, L9, L10, L11, and L12, and a scale bar indicating 0 to 2 meters.

SD01

LIII-1

LIII-3

LIII-4

LIII-5

LIII-6

LIV

LI

LII

LIII-1

LIII-2

LIII-3

LIII-4

LIII-5

LIII-6

LIV

L1

L2

L3

L4

L5

L6

L7

L8

L9

L10

L11

L12

L13

LV

LVI

0

2m

(1/60)

SD01

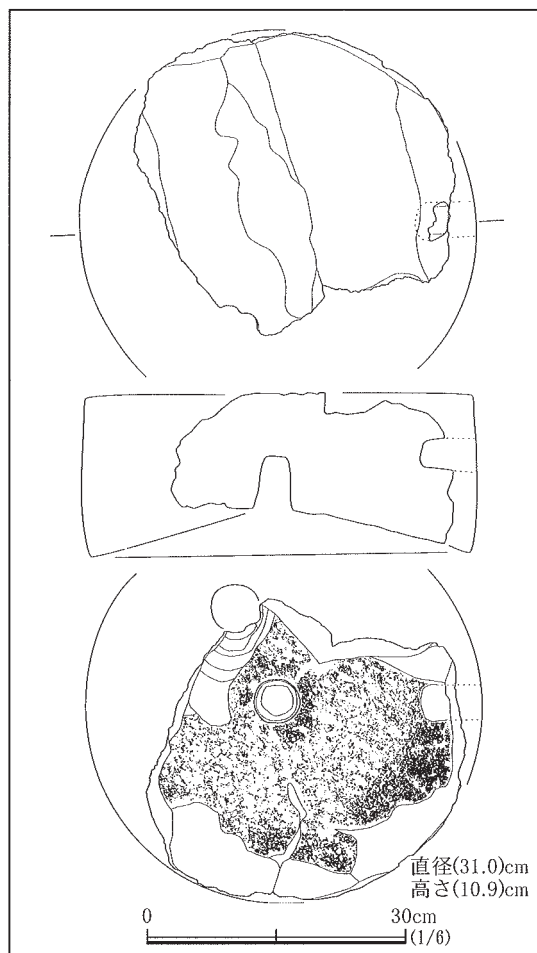
L I 10YR3/3 暗褐 粘性なし、しまりあり、砕石盛土。

L II 10YR3/3 暗褐 粘性ややあり、しまりあり、炭化物粒・白色土粒・瓦片を含む。一部グライ化。

L III-1 10YR4/3 にぶい黄褐 粘性ややあり、しまりあり、炭化物粒・白色土粒を含む。

L III-2 10YR4/3 にぶい黄褐 粘性あり、しまりややあり、白色粘質土ブロック多量・炭化物粒を含む。

- 第 12 図 二本松城址② 1 丁実測図



第13図 二本松城址②SD01出土遺物

2 T

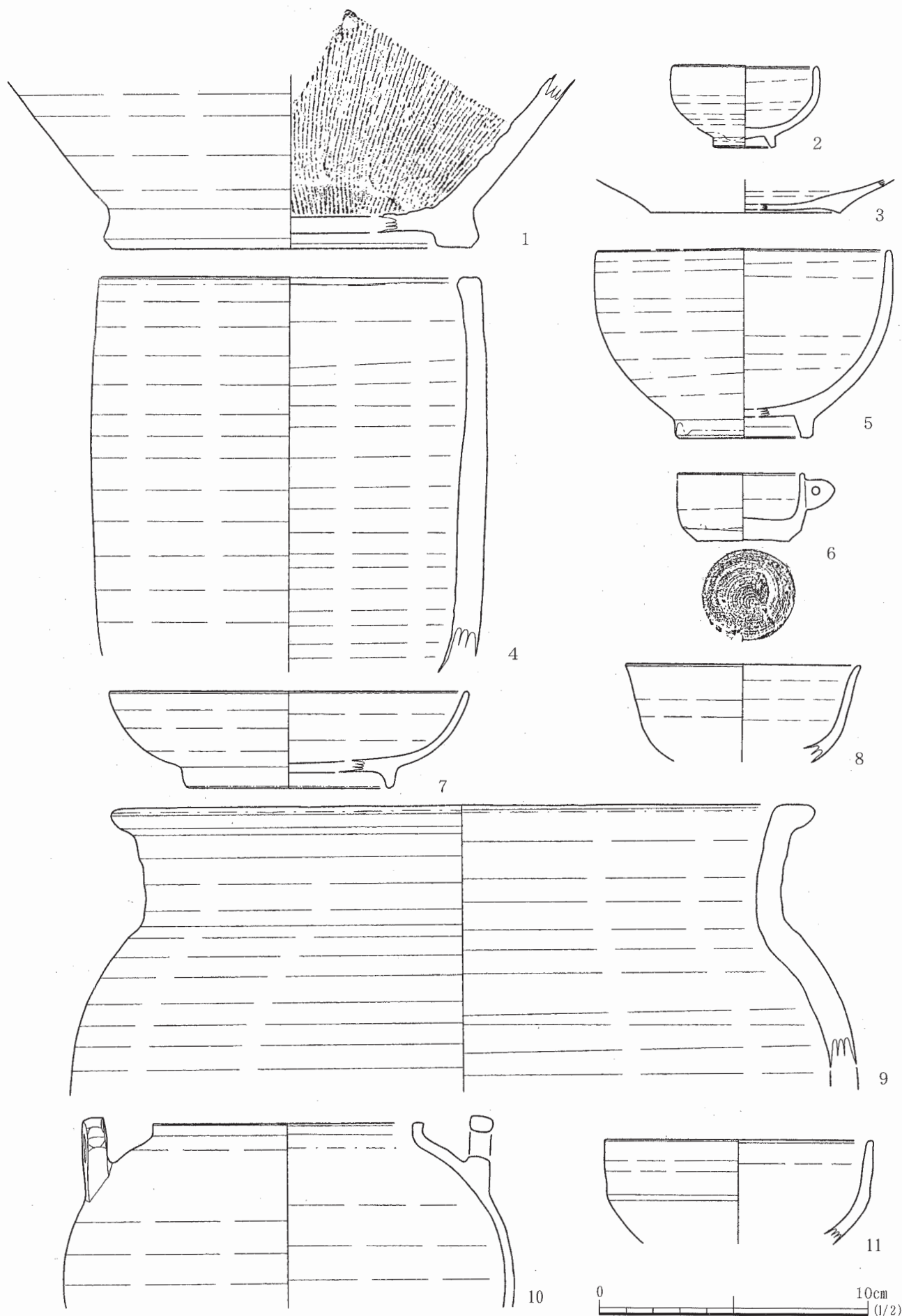
1 Tから東に4 mの地点に設定した10×2mのトレンチである。現況はほぼ平坦である。深さ約50cm掘り下げるとLⅢに達する。LⅢの造成順序を確認する為、サブトレンチを設定して掘り込んだ結果、1 Tと同様にLⅢは北から南へ向かって造成が行われていることが確認されたが、この面から遺構は検出されなかった。さらに、サブトレンチを拡張してLⅢの一部を掘り下げLⅣを確認したが、遺構は確認されなかった。遺物は、LⅡより脚付乗燭の脚部片を含む陶器片26点（第15図15、図版6-8 a）・磁器片45点（図版6-8 b～d）・すり鉢片1点・瓦片1点、LⅢより瀬戸美濃産とみられる鉢を含む陶器片28点（第15図16、図版6-8 e・i～k）・肥前産の口縁部が輪花状を呈す皿片を含む磁器片14点（第15図18、図版6-8 g・h）・すり鉢片2点・口縁部に煤が付着し、灯明皿として使用されたとみられる土師質土器1点（第15図17、図版6-8 f）・基石1点（図版6-8 1）・釘1点が出土している。

調査結果

今回の調査において、地表面より40cm下層から幕末期頃の大規模な盛土造成跡が検出され、地表面より120cm下層から江戸時代と考えられる溝跡（SD01）1条が検出された。したがって、溝跡（SD01）を検出した遺構検出面の保存状態は良好である可能性が高いものと判断されたため、当該調査区域全体を要保存区域とし、遺構確認面まで掘削を伴う開発に際しては、事前の本調査が必要であると判断された。

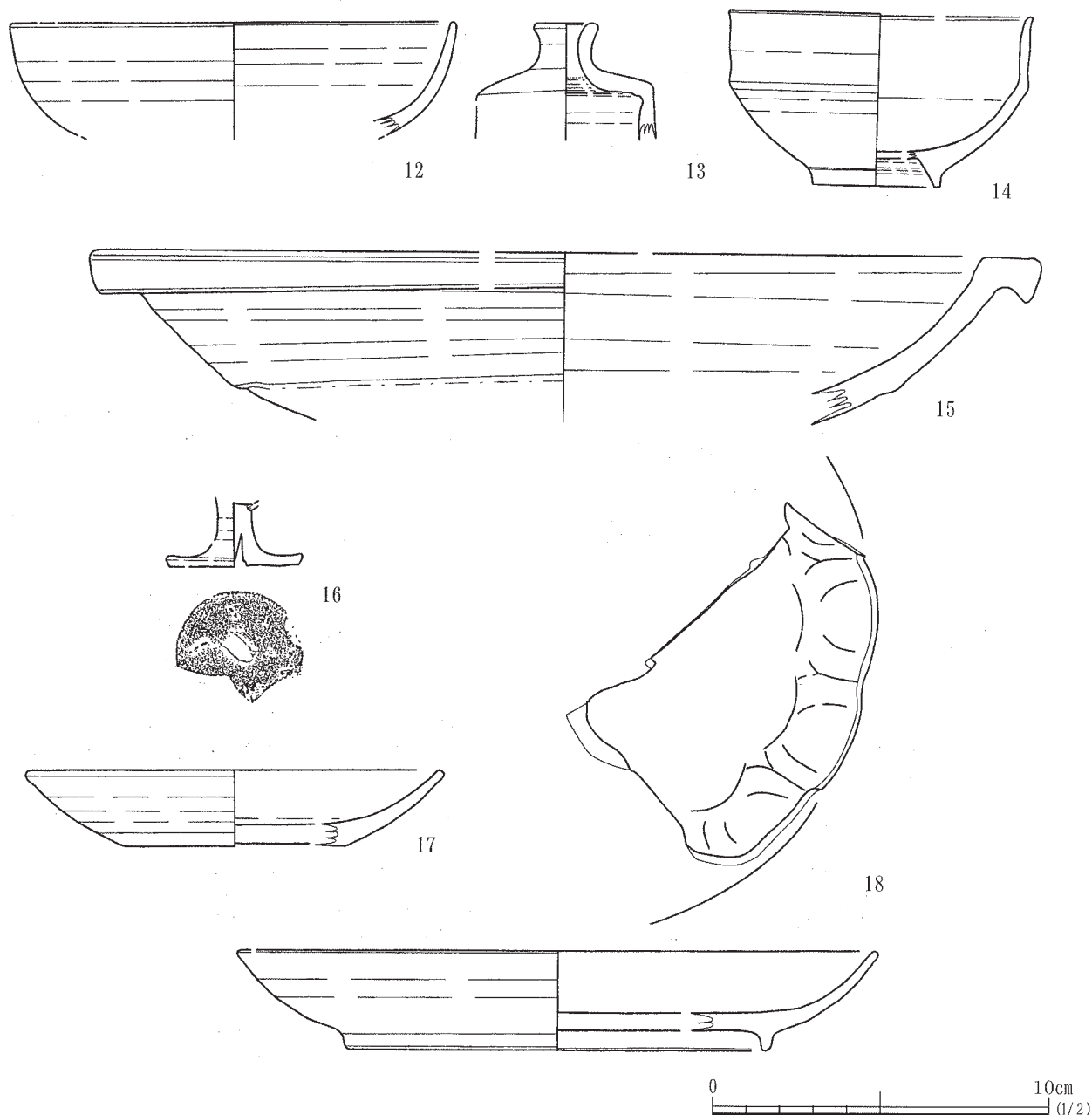
調査後の対応

調査結果に基づき協議した結果、個人住宅建築部分は、遺構検出面まで影響を及ぼさない程度の掘削であるため、保護層を十分確保できることから慎重に施工するよう依頼した。しかし、駐車場を造成する部分については、遺構確認面までの保護層が十分確保できず、また計画変更も難しいとのことから、遺構確認面まで掘削が及ぶ40㎡については次年度に本調査を実施することとした。



第14図 二本松城址②出土遺物1

(1~4-1TLⅡ、5~7-1TLⅢ上、8~9-1TLⅢ-2)
(10~11-1TLⅢ-4)



第 15 図 二本松城址②出土遺物 2 (12~13-1 T LⅢ-5、14-1 T LⅣ、15-2 T LⅡ)
(16-2 T サブ 拡 LⅢ-1、17~18-2 T LⅢ-1)

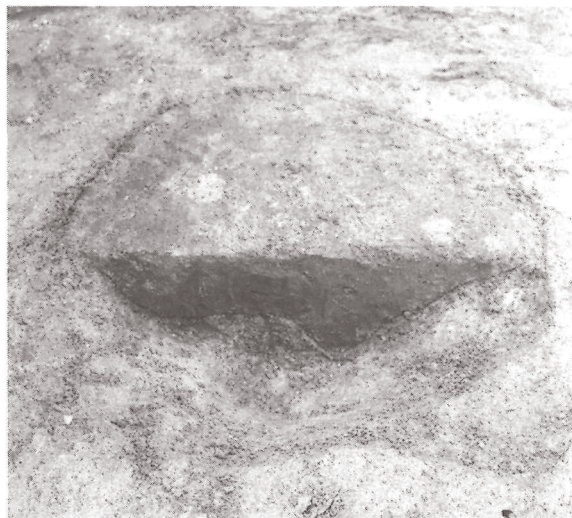
出土遺物観察表

挿図番号	挿図番号	出土地点・層位	材質	器種	規格(cm)			備 考	産 地
					口 径	底 径	器 高		
					()は復元径	()は現存高			
第14図 1	図版6-7b	1 T LⅡ	陶器	擂鉢	-	(13.7)	(6.6)	鉄化粧、外面に煤付着	本郷
第14図 2	図版6-4	1 T LⅡ	陶器	碗(猪口)	(5.4)	(2.2)	3.1		相馬
第14図 3	図版6-7c	1 T LⅡ	陶器	皿	-	(7.2)	(1.3)	内面のみ施釉	
第14図 4	図版6-2	1 T LⅡ	陶器	火鉢	(14.4)	-	(15.0)		岸?
第14図 5	図版6-5	1 T LⅢ上層	陶器	碗	(11.0)	(4.9)	7.2	貫入あり	相馬
第14図 6	図版6-6	1 T LⅢ上層	陶器	餌入	4.7	3.4	2.6	片つまみ付径3mmの穴有・底部回転系切	
第14図 7	図版6-7h	1 T LⅢ上層	磁器	小皿	(13.8)	7.8	3.7	染付	肥前
第14図 8	図版6-7f	1 T LⅢ-2	磁器	小碗	(8.8)	-	(3.7)	染付	肥前
第14図 9	図版6-3	1 T LⅢ-2	陶器	壺	26.7	-	(10.9)	体部残存径29.8cm	岸?
第14図10	図版6-7j	1 T LⅢ-4	陶器	土瓶	(10.1)	-	(7.0)	貫入あり・染付(葉)・胴部径17.1cm	相馬
第14図11	図版6-7i	1 T LⅢ-4	陶器	碗	(10.1)	-	(4.0)	貫入あり	相馬
第15図12	図版6-7k	1 T LⅢ-5	磁器	皿	(13.2)	-	3.5	染付(花唐草)・口縁部輪花状	肥前
第15図13	図版6-7l	1 T LⅢ-5	磁器	花瓶	1.6	-	(3.5)	染付(花)・体部残存径5.3cm	肥前
第15図14	図版6-7g	1 T LⅣ	陶器	碗	(9.0)	(3.5)	5.1	貫入あり	相馬
第15図15	図版6-8a	2 T LⅡ	陶器	脚付秉燭	-	3.9	(2.1)	底部回転系切・底部を削り串を挿す	
第15図16	図版6-8e	2 T サブ 拡 LⅢ-1	陶器	鉢	(28.6)	-	(5.1)	染付	瀬戸美濃?
第15図17	図版6-8f	2 T LⅢ-1	土師	灯明皿	12.2	(6.6)	2.3	ロクロ、口縁部に煤付着	在地
第15図18	図版6-8g	2 T LⅢ-1	磁器	中皿	(18.9)	(12.4)	3.0	染付(松)・口縁部輪花状	肥前

図版 4 二本松城址①



1. 試掘調査地現況（北より）



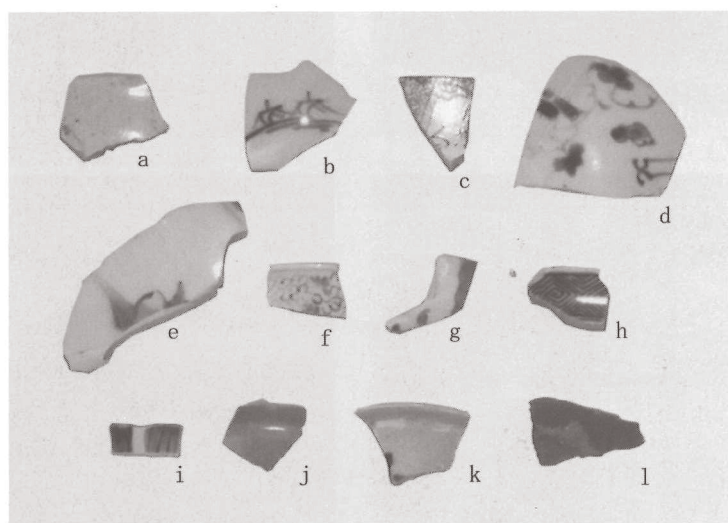
2. 1 T P 1 半裁現況（西より）



3. 2 T 精査状況



4. 2 T 基本層序（北より）



5. 出土遺物

図版5 二本松城址②



1. 試掘調査地現況（北より）



2. 1 T 精査状況（北より）



3. 1 T サブトレンチ断面（東より）



4. 1 T SD01断面（東より）



5. 1 T SD01完掘状況（南より）



6. 2 T 精査状況（北より）

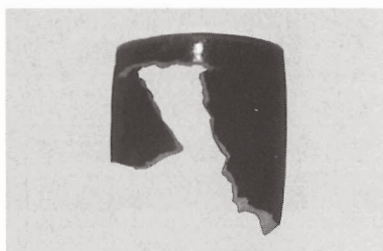


7. 2 T サブトレンチ断面（南より）

図版 6 二本松城址②出土遺物



1. 1 T SD01 Q13出土石臼



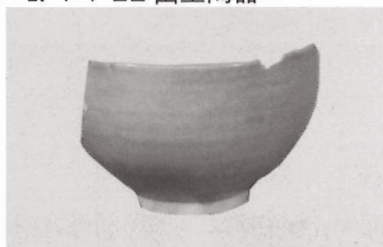
2. 1 T LII 出土陶器



3. 1 T LIII-2 出土陶器



4. 1 T LII 出土陶器



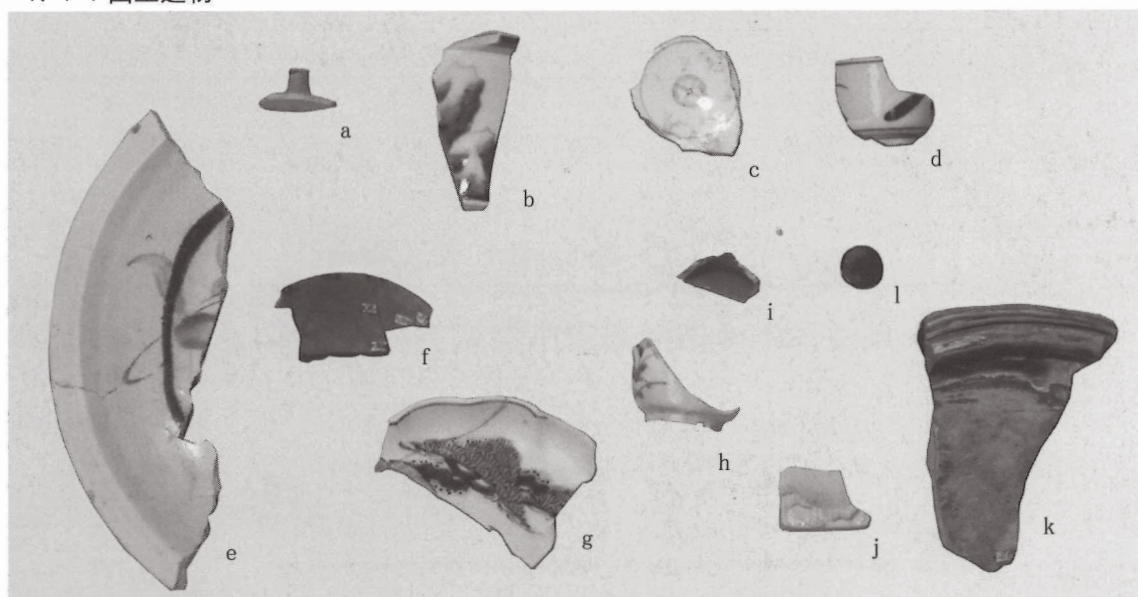
5. 1 T LIII上 出土陶器



6. 1 T LIII 出土陶器



7. 1 T 出土遺物



8. 2 T 出土遺物

報 告 書 抄 録

ふ り が な	へいせい18ねんどしないいせきしくつちょうさほうこくしょ							
書 名	平成18年度市内遺跡試掘調査報告書							
副 書 名	郡山台遺跡 高西地区 二本松城址							
巻 次								
シ リ ーズ 名	二本松市文化財調査報告書							
シ リ ーズ 番号	第32集							
編 著 者 名	吉田 陽一							
編 集 機 関	福島県二本松市教育委員会							
所 在 地	〒964－8601 福島県二本松市金色403番地 1							
発 行 年 月 日	西暦2007年3月30日							
ふ り が な 所収遺跡名	ふ り が な 所 在 地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調 査 面 積	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
こおりやまだい 郡 山 台	こおりやまだい 二本松市郡山台	7210	0064	140 25 5	37 33 30	20060417 } 20060419	96.3㎡	個人住宅
こおりやまだい 郡 山 台	こおりやまだい 二本松市郡山台	7210	0064	140 25 14	37 33 31	20060703 } 20060707	36㎡	駐車場造成
たか にし 高 西	た か に し 二本松市高西	7210		140 25 46	37 34 31	20060419 } 20060427	146㎡	倉庫建設
にほんまつじょうし 二本松城址	かくない 3 ちょうめ 二本松市郭内三丁目	7210	0019	140 26 6	37 35 53	20060904 } 20060905	20㎡	宅地売却
にほんまつじょうし 二本松城址	かくない 2 ちょうめ 二本松市郭内二丁目	7210	0019	140 26 2	37 35 53	20060906 } 20060908	40㎡	個人住宅
所収遺跡名	種 別	主な 時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特記事項	
郡 山 台	集 落 跡	奈良			土 師 器		大規模に削平され滅失	
	官 衙 跡	平安	ピット、溝跡		土師器・須恵器・ 石製紡錘車		古代の区画溝跡を検出	
高 西 地 区		平安			土師器・須恵器		大規模に改変され滅失	
二本松城址	近 世	中世	ピ ッ ト		陶 磁 器		大規模に削平され滅失	
		近世	水 路 跡		陶 磁 器		江戸時代の水路跡検出	

二本松市文化財調査報告書 第32集

平成18年度市内遺跡試掘調査報告書

平成19年3月30日発行

編集・発行 福島県二本松市教育委員会

福島県二本松市金色403番地1 TEL 0243-23-1111

印刷 有限会社 渡辺謄写堂

福島県二本松市亀谷一丁目43-3 TEL 0243-22-0613